



令和元年6月26日  
佛教大学附属幼稚園

## 子どもは真似る名優

園長 田中典彦

また暑い夏がやってきます。そして子どもたちには楽しい夏休みです。わたくしがいつも楽しみにしていることがあります。それは週に一回の給食を一緒に食べさせていただくことです。いつもいろんなことを話してくれるからです。「うちのパパはね、ピーマンきらいなの」、「ぼくのママはね、よくおこるんだ」。子どもさんたちはしっかり親を見ています。そのうちに言葉もしぐさもすっかりまねることとなっていくのです。子は親をまねる名優なのです。子にとって親は理想の人なのですから、それに近づこうと見習うのです。家庭という園の中で、朝に夕に、親の日常の行いを見て、言葉づかいを聞き、考え方にならされ、しぐさを真似て育っていくのです。

晴れの日も、雨の日も、暑い時でも、寒い時でも、わたくしたちの幼稚園では朝のしあわせがあります。園舎の入り口に勢至丸さまがおられ、登園する子どもたちがみんな「勢至丸さま、おはようございます」と、かわいい手を合わせてあいさつをします。そしてわたくしも合掌して挨拶をしてくれるようになりました。お送りのお母さんも、お父さんも手を合わせられています。なんとすがすがしい姿なんだろうといつも感じています。

合掌はたがいに拝みあう心のあらわれです。仏教ではみんな仏の心をもっているのです。そして仏さまと変わらない人格をそなえているのです。これを仏性（ぶっしょう）といいます。だから合掌して挨拶することは、おたがいの仏心の通じ合いなのです。「今日もお互いに、明るく、正しく、仲良く生きましようね」って。朝いちばんのご挨拶をするのです。

よく知られているように、インドの人たちは「おはようございます」も「こんにちは」も「さようなら」も「おやすみなさい」もすべて合掌して「namas te(ナマス テー)」とお互いに拝みあうのです。信頼も、期待も、感謝も、反省も、すべてこの合掌の心から生まれてくるのです。

仏教では「人生きる時、精進することならば、たとえば植木の根無きが如し」と精進することこそが人生の根本であると教えられています。精進とは、ものごと、とくに善いことをするのに精魂をうちこみ、ひたすら進むことに勇敢であることを言います。簡単には、善いことをし続けることによって人格を形成することとってよいでしょう。「継続は力なり」です。日本の「しつけ」は仏教の「しつづける」からきていると言われていました。「しつづける」⇒「しつづけ」⇒「しつけ」です。子どもの真似る力をうまく子育てに活かせることです。家庭で親がし続けていることが、そのまま自然に子どもに受け取られていくこととなるのです。自分がしていないことを子どもにやらせようとするのは、「おしつけ」です。

当園では、善い生活習慣を身に付けていただくように、合掌してあいさつ、手洗い、「ありがとう」「ごめんなさい」などを保育者みんなで、「しつづけ」の中で実践しています。しばらくの間、大事なお子様を手元にお返しいたしますが、どうぞ、園での「しつけ」をご家庭でもしつづけていただくことをお願いいたします。Have a nice summer vacation!